

# 『丹生ダムふれあいフェスタ2009』開会挨拶の要旨

丹生ダムふれあいキャンペーン実行委員会委員長（余呉町副町長） 伊吹惠鐘

「丹生ダムふれあいフェスタ2009」の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

このフェスタは、今回で17回目を迎え、毎年恒例の余呉町における親子が参加できる夏のイベントとしてすっかり定着し、子供たちも楽しみにしてくれていることと思います。

このフェスタは、かけがえのない水の大切さや水資源開発の重要性に対する国民の関心を高め、理解を深めるために、毎年8月1日を「水の日」とし、この日から1週間を「水の週間」として全国的に展開されている運動の一環として開催されているものです。

さて、今、私たちの生活では水道の蛇口をひねれば当たり前のように水が出てきます。しかし、これは当たり前ではなくむしろ奇跡に近いことなのです。というのも、地球上には海や川、湖、そして地下などに多くの水がありますが、これらのうち、実際に私たちが生活に利用できる水の量はどれくらいだと思いますか？

驚くなかれ、0.01%、1万分の1でしかありません。さらに、直接利用できる水は0.0001%、100万分の1ともいわれています。といってもピンと来ないと思いますので例えて言います。地球上の水の量を1,000ℓとすると、そのうち生活に使えるのはわずか1ccほどの量です。

私たちは、当たり前のように水をジャブジャブ使っていますが、世界中でこれほど贅沢に水を使える国はそうそうありません。あと15年もすると世界の3分の2は水不足に陥ると言われています。

人間だけでなく全ての生物は、水なくして生きていけません。また、私たちの日常生活からあらゆる産業に至るまで、水なくして成り立ちません。しかし、その水はわずかしかなない貴重なものなのです。

ところが、この水も時には私たちの命や財産を奪うことがあります。7月に中国・九州北部を襲った豪雨は、洪水となって河川を氾濫させ大変な被害をもたらしました。

水は、このように私たちの生命や経済社会を維持すると同時に、生命や財産を奪うものにもなります。そこで、今年の「水の週間」のメインテーマにもありますように、「将来を安全・安心に暮らすため、水を大切に使う社会」を皆んなで築き上げていかなければなりません。

余呉町の広大な山々は、まさに水を蓄え、洪水から守ってくれています。ですから、この山々をしっかりと守って行かなければなりません。

しかし、それだけでは安定的・有効に水を活用し、また、洪水から生命や財産を守ることはできません。そこで計画されているのが「丹生ダム」です。しかし、調査が始まって40年を過ぎますが、まだ実現に至っていません。このフェスタは、ダムの早期着工を願って開催するものでもあります。

本日の会場には、ダムや水のことについて学んでいただけるコーナーもあります。本日のフェスタが、そうしたことを改めて考え、学ぶ機会となることを祈念いたしまして、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

どうか1日楽しくお過ごしください。